

報告者 部会長 ものづくりスペースみんななかま竹内 仁

日 時 2013年12月12日(木)

場 所 城陽市福祉センター 第1会議室

出席者：(有)ファンシシステム(1名)、就労促進授産支援ネットワーク(1名)、宇治支援学校(1名)、魁(1名)

はびねす(1名)、あっぷ(1名)、城陽作業所(1名)、野の花(1名) みんななかま(3名)、(参加者数：12名)

オブザーバー 福祉課(1名<オブザーバー>)

欠席者：、庭一造園(1名)、(株)ナプラス(1名)、宇治支援学校(1名)、あんびしゃ(1名)

検討課題

1、福祉情勢・就労に関わる情報の共有 2、福祉事業所フェア実施評価 3、2013年度就労部会の取り組み(企業見学等)

【議事録】

1、福祉情勢・就労に関する情報の共有

- ・優先調達法情報の共有。(別紙資料)
- ・差別禁止法、府条例の進行状況について情報共有。

2、(株)アクス (株)ナプラスへの見学について

①各事業所の企業見学に対する目的

- *見学に行った障がい者が、「一般の仕事も頑張ったらできるかも」と言っており、刺激を受けていた。モチベーションアップになると感じた。
- *アクスで、元あっぷの利用者がいた。それを見て、障がい者の方も「自分も行けたら良いな」と言っていた。
- ※発泡スチロールの園芸について、事業所でも取り入れみようと思った。
- *企業就労に興味を持っている障がい者に、働くことのイメージを持ってほしいと考え参加した。ステップとしてはよかったと思っている。
- *企業と福祉のタイアップが魅力的だと思っているので、事業所として、何か企業と繋がりを持ってないかという視点で参加した。
- *事業所には、即就労できる方はいないけど、刺激や経験、就労の意識付けのために参加した。
- *障がいを持っていても一般就労している人がいることを知ってほしかった。アクスは映像だけだったので「実際の現場を見たい」という声も出てきている。良い刺激になったと思っている。
- *障がい者だけではなく、施設職員も一般就労に対して、漠然としたイメージを持っている。職員の意識を変えるきっかけにもなったのではと思っている。

3、福祉事業所の所得保障の取り組み

- *企業が障がい者の実習を受け入れるのは、企業のためになるから。「福祉のため」という観点ばかりではない。障がい者が実習から戻ってきたとき、自信を失くす結果になったとしても、施設がもう一度いちからやるというくらいの気概でいてもらわないと、受け入れる企業側も大変になる。
- *事業所としては、一般企業に実習へ出すのも不安だが、やってみないとわからない。「いけるやろ」と思っている、場に飲まれて力を発揮できない場合もある。実習がうまくいかなかった、「良い経験ができたね」といって、良い方向に持っていけたらいいと思う。
- *過去に働いていた施設の中で、何人か一般企業へ就労して行ったが、続かなかった。辞めた原因は人間関係だった。送り出す施設も、受け入れる企業も大変な思いはあるけど、覚悟が必要。
- *「障がい者を雇用すると会社が良くなる」ということを行政や福祉から言っても説得力がないが、企業同士ですると、説得力を増す。
- *就労部会に参加している一般企業の関連で、企業実習を受けて入れてくれるリストを作成してもいいのでは。
- *福祉事業所へのコンサルタントを行い、事業の見直しから工賃アップを考えてもいいのでは。

4. 今後の方向性

- *企業とのコラボを考えて、各事業所製品のプレゼンの実施。
- *経営の仕組みについて、企業の方を講師に勉強会を実施。